



広報

vol.73

うんぜん



おおきくなあれ

12月3日に行われるテッラ・マードレ・ジャパン インUNZENで、「雲仙こぶ高菜」の栽培についての発表を行う市立鶴田小学校の3年生20人。
この日は、小さな芽を出したこぶ高菜の観察と水やりなどを行いました。

11月号
2011 November



「食」や「農林漁業」って、
 考えてみたら、
 うまかもんば、
 雲仙で、

おいしい、
 きれい、
 嬉しい

Terra テッラ・マードレ・ジャパン
 madre
 Japan in Unzen

インUNZEN

2011 12/3 (土) ~ 12/4 (日)

| 会場 | 雲仙メモリアルホール ほか

広報

うんぜん

11 月号
 2011 November

CONTENTS ~もくじ~

- 02 テッラ・マードレ・ジャパンinUNZEN
- 06 総合計画の策定に向けた市民アンケート
- 10 総合計画 平成22年度進捗状況
- 12 うんぜんニュース
- 14 島原半島ジオパークを楽しむために
- 15 がんばらんば国体通信
- 16 はびねず通信
- 17 消費生活センターからのお知らせ
- 18 うんぜんクリック(観光情報)
- 20 雲仙じげもん便り
- 22 個人住民税の扶養控除が変わります
- 23 嘱託・臨時職員募集 ほか
- 24 人事行政運営等の状況公表
- 26 まちの話題 My Town Topics
- 28 市民スポーツ大会結果
- 29 市民講座UNZEN
- 30 集団健診日程
- 31 子育てホットステーション
- 32 皆さんからのご意見・プレゼント ほか
- 34 市からのお知らせ
- 36 情報コーナー
- 38 スクさんの日々 ほか
- 39 市長コラム・うんぜん健康レシピ ほか
- 40 うんぜんくらしのカレンダー

表紙のはなし



鶴田小3年生の子どもたちは、個性豊かな20人。それぞれ、自分がまいた種が芽を出した様子を、スケッチしながら観察し、12月の発表に向けた学習に取り組んでいました。

テッラ・マードレって？

イタリア語で「母なる大地」という意味を持つ、スローフード協会が世界で開催する生産者会議で、生産者とその支持者の交流や情報発信を目的としています。日本では、2009年の横浜に続く2回目の開催。雲仙市で行われる今回は、スローフード協会の中心メンバーとして活動されてきたピエロ・サルド氏の講演をはじめ、フードマーケットや分科会(セミナー)、ワークショップ、生産者を訪ねる現地見学会などが予定されています。

スローフードって？

北イタリアのブラに本部を持つ国際組織で「おいしい(地域の中で守られてきた味)、きれい(環境と調和した生産)、ただしい(生産者に対しての公正な評価)」を合言葉に生物多様性を守り、食と味覚の教育と、持続性農業を推進し、食の喜びを尊重する文化を普及させるために、さまざまな活動をしています。

●プログラム(スケジュール)

～そのほかの催し～

- **ワークショップ** ※詳しくは、次ページをご覧ください
12/3 10:30-12:00 | 会場 | 雲仙メモリアルホール
- **ポスターセッション(展示発表)**
12/3 10:30-11:30 | 会場 | 雲仙メモリアルホール
15:40-16:10
長崎県立鶴洋高校における、長崎の果物「ゆうこう」についての取り組みの説明のほか、長崎県立大学、日本大学、佐賀大学などにおけるスローフードの取り組みも説明します。
- **雲仙マルシェ**
12/3 10:00-13:00 | 会場 | 雲仙メモリアルホール
雲仙メモリアルホール前に市場(マルシェ)が出現。島原半島の特産品をPR・販売します。
- **温泉蒸しフードマーケットin小浜**
12/3-4 11:00-17:00 | 会場 | ほっとふっと105
105mの小浜温泉足湯の横で、「おいしい、きれい、ただしい」食材を販売。目の前にある温泉蒸し釜を使って、その場でアツアツの蒸したてが食べられます。
- **肉じゃが鍋ふるまい**
12/3 14:00-16:00 | 会場 | 雲仙温泉街
長崎県が、日本でのじゃがいも栽培発祥の地であることちなんで、雲仙温泉街(けやき広場を予定)に、肉じゃが大鍋が出現し、無料でふるまわれます。

12/3(土)

- **開会式**
12:00-12:30 | 会場 | 雲仙メモリアルホール
 - **ピエロ・サルド氏基調講演「スローフードの理念」**
12:30-14:00 | 会場 | 雲仙メモリアルホール
 - **各地の事例発表**
14:00-15:30 | 会場 | 雲仙メモリアルホール
雲仙市鶴田小学校3年生による雲仙こぶ高菜栽培体験、福島県からは震災後における農家の取り組みや山形県、北海道からもその地域の課題に取り組まれている事例を発表します。
 - **分科会(セミナー)** ※詳しくは、次ページをご覧ください
16:15-18:30 | 会場 | 各分科会会場
4つのテーマで分科会が開かれます。
【テーマ】自然の脅威と暮らしの対応/味の箱舟プロジェクトとは?/スローな農と食育/農業における生物の多様性
- ※上記プログラムには、参加費500円が必要です

12/4(日)

- **現地見学会(エクスカーション)**
9:00-15:30 | 出発 | ホテル東洋館
—参加費2,000円(昼食代込み)—
 - 海コース(エタリの塩辛と日本一の足湯をめぐる)
 - 山コース(岩崎さんの野菜と雲仙の恵を味わう)参加には申し込み(11月18日(金)まで)が必要です。詳しくは、事務局(☎0957-38-3111)まで、ご連絡ください。

味の箱舟(=アルカ)とプレシディオ

スローフード協会の「味の箱舟プロジェクト」では、現在、日本から25品目が認定されています。雲仙市からも、「エタリの塩辛」と「雲仙こぶ高菜」の2品目が認定されており、さらに、「雲仙こぶ高菜」は、日本で唯一プレシディオにも認定されています。

味の箱舟とは?

各地方の伝統的かつ固有な在来品種や加工食品、伝統漁法による魚介類などのなかには、このままでは消えてしまうかもしれない、小さな生産者による希少な食材がたくさんあります。こうした食材を世界共通のガイドラインで選定し、プロモーション活動などの支援策によって、その生産や消費を守り、地域における食の多様性を守ろうというものです。

プレシディオとは?

小規模生産者を地域で直接支援し、彼らが伝統的な市場を開拓するのを助けることにより、伝統的な生産方法を守るものです。プレシディオは、生産者を集め、生産自身が販売促進を調整できる環境を整え、彼らの商品の品質と評価の基準づくりを支援することで、小規模生産者による食品の生産技術を安定させ、厳格な生産基準を設定し、伝統的な食物に発展力のある将来を保証しようというものです。



○引用:スローフードジャパン オフィシャルサイト (<http://www.slowfoodjapan.net/>)

●ワークショップで、食べて、学んで、楽しもう

■テーマ:だしと雲仙地域のまぜご飯

実際に食べて「味の多様性」を感じるコーナー。

今回のテーマは2つ!まず一つは、島原半島の身近な海の幸、山の幸、里の幸を使った「まぜご飯」。昔から食べ継がれてきた、海老飯、高菜飯、八里飯、自転車飯、鶏飯、小豆飯…全部まとめて味わいましょう。そしてもう一つは、料理の基本となる「だし」。橋湾産煮干などの「魚だし」を、日本と世界を代表する「だし」とともに、試飲します。すべての旨みを舌に記憶させ、「だし」について学んでみましょう。

協力:島原・加津佐地区生活改善研究グループ連絡会



●分科会(セミナー)にも参加しよう

■自然の脅威と暮らしの対応

| 会場 | ホテル東洋館

3月11日の東日本大震災は、現在もさまざまなことを私たちに問いかけています。衣食住の安心・安全の大切さ、改めて考える「自然の脅威」、そして人の持つ強い力。



島原半島は「被災地」から「ジオパーク」への復興を遂げつつあります。もちろん、噴火活動が収まったことが、直接的な原因の一つです。しかし、地域の復興そのものは、人の力によるものです。

今回のテラ・マードレでは、東日本大震災で被災したスローフードのメンバーをお招きし、現地の状況と、震災から半年経った今、私たちにできることを話し合いたいと思います。一緒に、災害について考えてみませんか?

今回のテラ・マードレでは、東日本大震災で被災したスローフードのメンバーをお招きし、現地の状況と、震災から半年経った今、私たちにできることを話し合いたいと思います。一緒に、災害について考えてみませんか?

■スローな農と食育

| 会場 | ホテル東洋館

～食べ物を作る農家、食器をつくる職人とのつながり～ともに土から～をテーマに、スローフード運動に賛同した生産者、お米、お茶、放牧豚の生産者が、生産現場のお話をします。安心、安全な食器を作る職人も語ります。



食物を食べるための食器まで、スローフード運動は考えていきます。これからの日本を支えるお子さんやお孫さんのために、わかりやすく語ります。食物から食器まで語るのは、全国でもここだけかも。ぜひ、お越しください。

■味の箱舟プロジェクトとは?

| 会場 | やまびこ会館

スローフード運動には、“「味の箱舟」プロジェクト”という、地域の食生活や食文化にとって大切な食材なのに、現在の経済効率優先社会の中で、消え行きそうなるものを登録し、必要な支援を行う世界的な取り組みがあります。



日本で登録されている食材は、現在25品目。このプロジェクトが、生産者に一体何をもたらすことができたのか?それぞれが抱える課題も含め、今後のあり方について意見を交わしたいと思います。さまざまな視点からの参加を、お待ちしております。

■農業における生物の多様性

| 会場 | 雲仙メモリアルホール

昨秋、名古屋で開催された、国際会議(COP10)により、生物多様性という言葉は、次第に浸透しつつありますが、対象は野生種にとどまっておらず、最も身近な存在であるはずの作物種について取り上げられることは、ほとんどありません。しかし、実際には、野生種以上に、作物種は、急速に画一化しており、生物多様性、さらには、それを基礎とする味の多様性が危機に瀕しています。



そこで、本分科会では、農業における生物多様性を守る実践事例を報告し、意見交換を行い、今後の活動のあり方について検討します。

大地が生み出す食べ物は、自然と時間を大事にする文化としての農業の基礎



ピエロ・サルド (Piero Sardo) 氏

イタリア・ピエモンテ州・ブラ市出身。1946年生まれ。

スローフード運動の創始者の一人。協会の副会長を務め、1996年に、食品の工業生産の影響で消えつつある伝統的な品種と食べ物の保護のための「味の箱舟」計画の開始に協力、2003年から「生物多様性基金」の理事長に就任。

食と農林漁業と環境などの生物多様性を守る世界のプロジェクトの為に、現場へ出向き、プロジェクトの調整に自身の経験を生かし貢献、生物多様性に関するテーマにおいてスローフードの代表者として、国際的に活躍中。2010年8月には、アルカに認定されている南串山町の「エタリの塩辛」とプレシディオに認定されている吾妻町の「雲仙こぶ高菜」の生産現場を視察した。

スローフードは、食と農林漁業と環境を守る国際的な市民運動であり、20年以上前、イタリアで発祥し、美食の概念から、地理学的・文化的な多くの深く異なるテーマと結びつき、成熟してきました。

2004年から2年に1回開催されている『テッラ・マードレ』(イタリア語で「母なる大地」という意味を持つ)『世界生産者会議は、「スローフード」という理念を共有する仲間たち、「生産者、料理人、教育者、若者、消費者」のネットワークです。

例えば、サラワック森林で胡椒を栽培するインパ先住民とカナダの小麦生産者、東京の料理人とダカールの道で料理を作る女性、アルプスのチーズ生産者とエチオピア高原の遊牧民の牧者に繋がる共

通の考え方がスローフードにはあります。その考え方の根本とは、みんな大地を尊敬し、大地が生み出す食べ物は、原料ではなく、「自然と時間を大事にする文化としての農業の基礎だ」という感覚があるのだと思います。

スローフードで提唱している「おいしい、きれい、ただし」という理念は、覚えやすいだけではなく、皆が目指している共通の目的であり、おいしくてきれいでただし食べ物のために働くことは、人間の将来を確保するためのたった一つの方法だと信じています。地球の存続について語っているではありません。地球はどうやつても我々人間よりも長生きしますが、自然に対しての尊敬を無くしたときに危険に陥るのは、結局は私た

ち人類なのです。『テッラ・マードレ』に集う人々により、自然と折り合った農と食、自然資源の懸命な利用を暮らしの中で創造していくことが、私たちの将来を守ることであると信じています。

エドガール・モラン(フランスの哲学者・社会学者)が書いたようにスローフード的な考え方によって「すべては再び新たに始まるべきである」と考えます。そして、テッラ・マードレにおいて「新たな始まり」は、すでにスタートしているのです。

日本語訳：アンナリーザ・ロンバルト(スローフードインターナショナル日本担当、文章補正：黒川陽子(スローフード長崎顧問)

「風土、生物、味、人の多様性を守り育む - 自然と折り合った農と食、暮らしの創造に向けて -」をテーマとした、テッラ・マードレ・ジャパン イン UNZEN は、国内で2回目の開催となります。

実行委員会として、開催に向けて、スローフードジャパン、スローフード長崎などの協力のもと、着々と準備を進めているところです。

地元小学校の体験発表や足湯蒸し釜の調理体験、海と山のエクスカージョン(現地見学会)など、雲仙市ならで

はの趣向を凝らした内容が盛りだくさんです。

まぜご飯の試食や肉じゃがのふるまいなど、食を楽しむ催しも予定されています。

皆さまどうぞ、12月3日は雲仙温泉に来て、スローフードと温泉で、身も心も健康になりましょう。

○問い合わせ○

テッラ・マードレ・ジャパン イン UNZEN 実行委員会 (観光物産まちづくり推進課内)

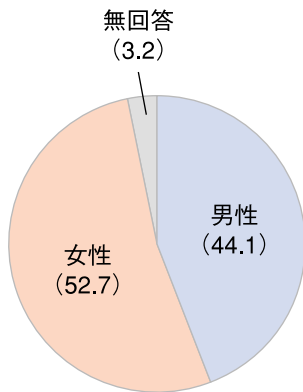
☎0957-38-3111

雲仙市総合計画の策定に向けた 市民アンケート調査結果

市では、「雲仙市総合計画後期基本計画」の策定に向けた準備を進めています。今後のまちづくりに対する市民の皆さまの意向を把握し、市民の声を反映した計画を策定するため、5月に市民アンケート調査を行いました。その結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。

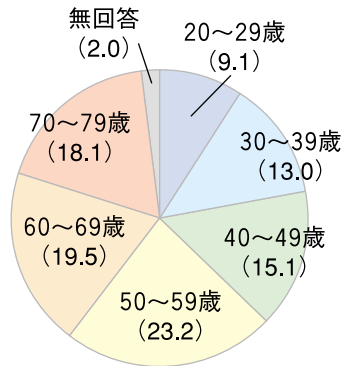
※（ ）内の数値は、割合（％）。四捨五入などにより合計が100とならない場合があります。

問 あなたの性別は？



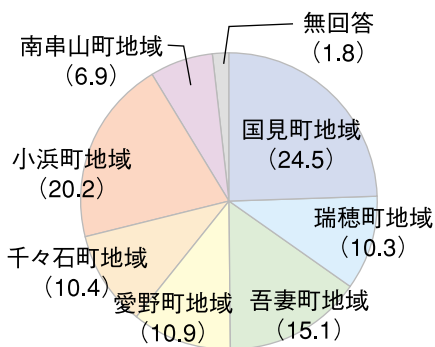
問 あなたの年齢は？

年齢は、50代が23.2%と最も多く、50代以上で6割を占める結果となっています。



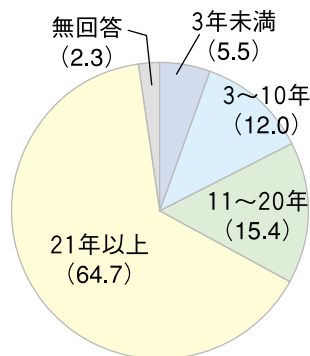
問 あなたがお住まいの地域は？

国見町が24.5%と最も多く、小浜町、吾妻町、愛野町、千々石町、瑞穂町、南串山町と続いています。



問 居住年数は？

居住年数は、21年以上が64.7%と最も多く、20年未満は32.9%となっています。



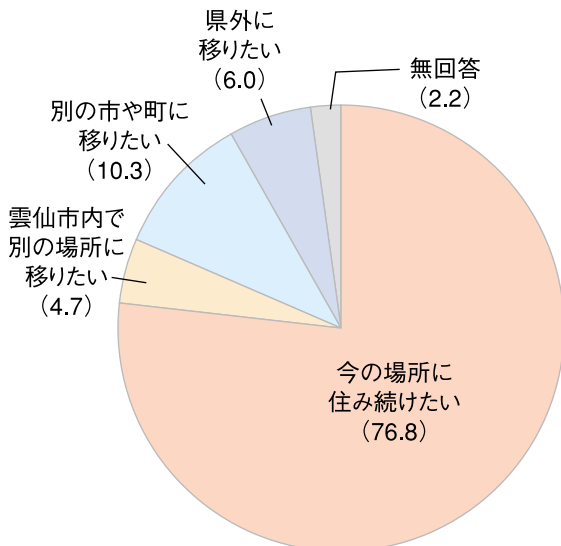
【アンケート概要】雲仙市在住の20歳から79歳までの市民の皆さまの中から、無作為に抽出された3,000人に調査票を送付し、調査を実施。1,196人から回答があり、回答率は39.9%。

問い合わせ

政策企画課 地域振興班
☎38-3111

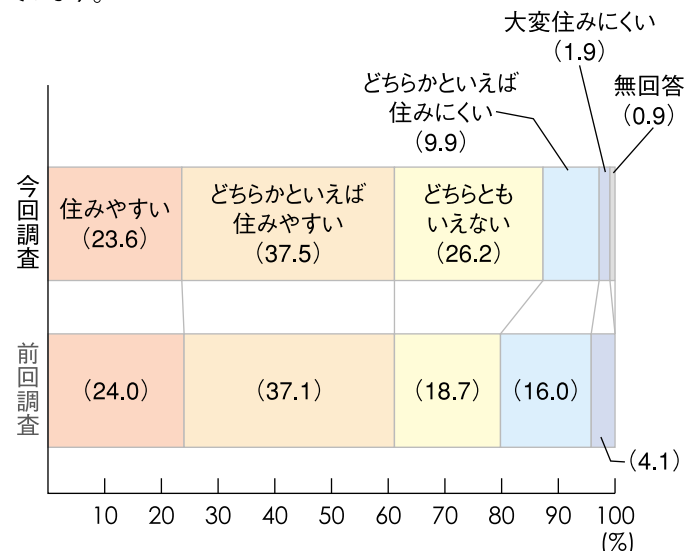
問 これからも住み続けたいと思いますか？

「今の場所に住み続けたい」が76.8%と最も多い結果となっています。



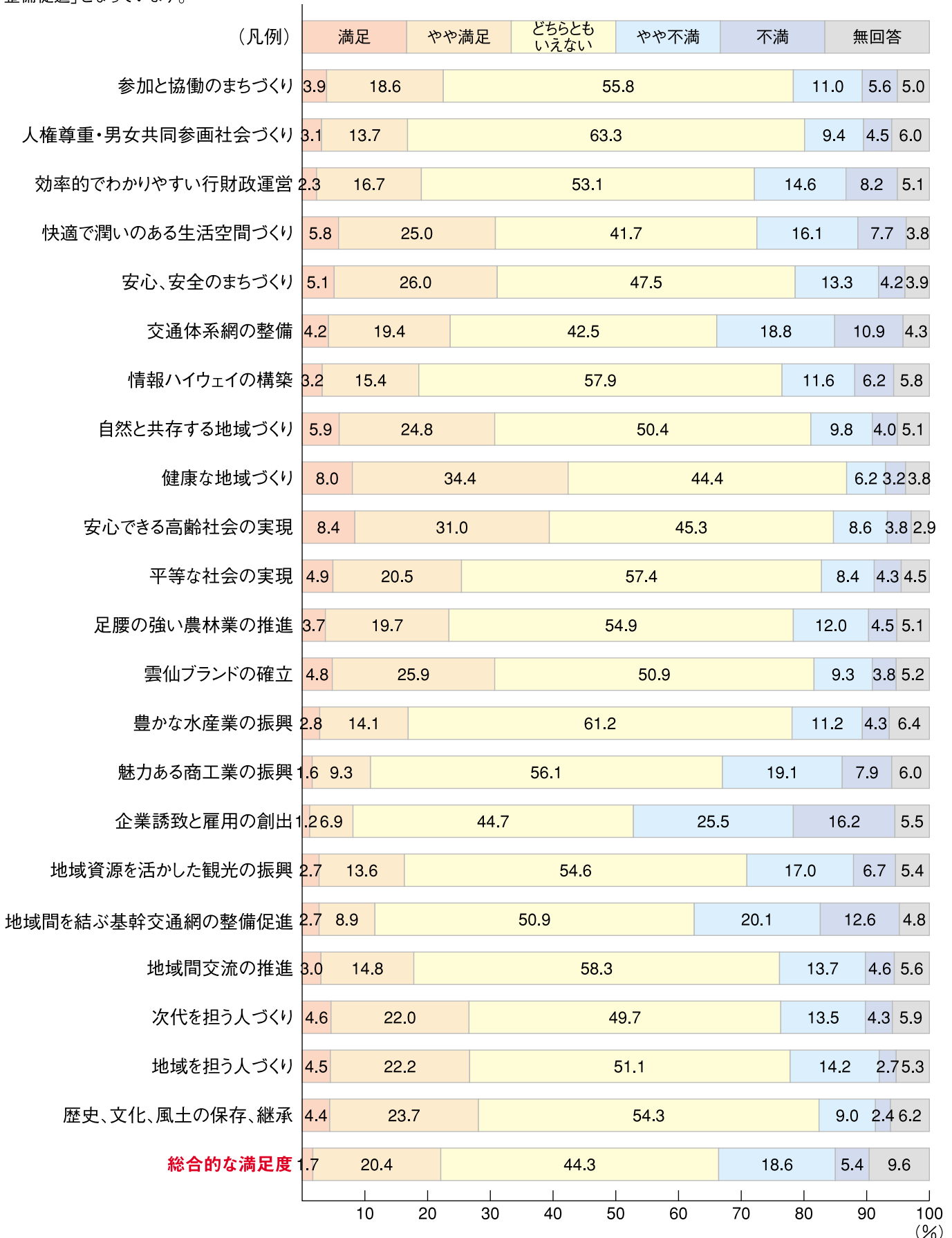
問 雲仙市は住みやすいところだと思いますか？

「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると、61.1%となり、前回（5年前）の調査と同じ割合となっています。



問 まちづくりの満足度

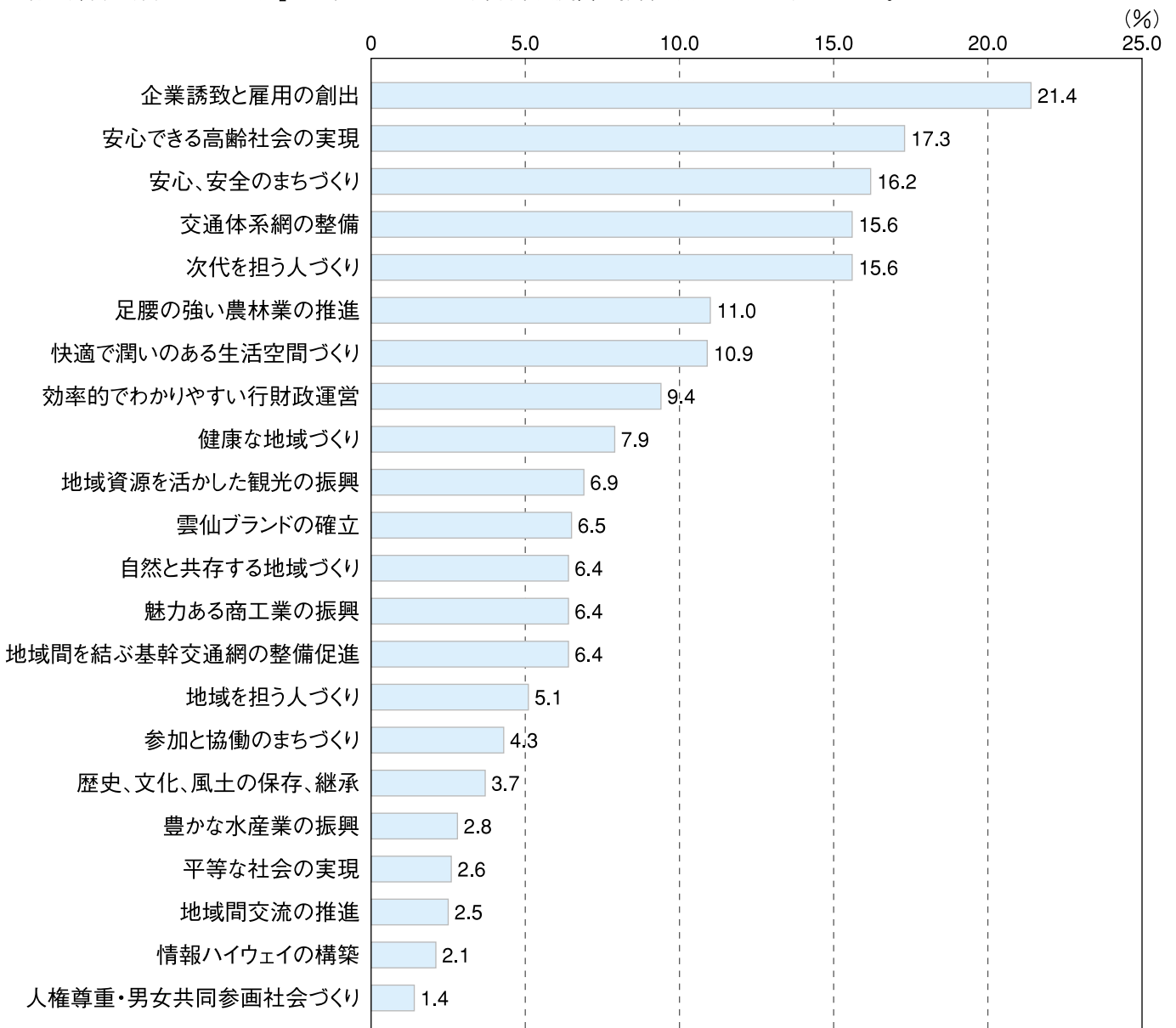
「満足」と「やや満足」を合わせた割合が最も高いのは、「健康な地域づくり」で42.4%、次いで「安心できる高齢社会の実現」で39.4%となっています。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた割合が高いのは、「企業誘致と雇用の創出」、次いで「地域間を結ぶ基幹交通網の整備促進」となっています。



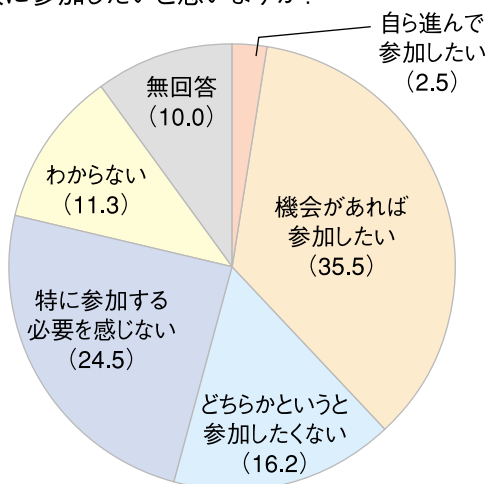
問 今後の重点分野（複数選択最大3つまで）

今後、力を入れてほしい分野は、「企業誘致と雇用の創出」で21.4%と最も多く、次いで、「安心できる高齢社会の実現」、「安心、安全のまちづくり」と続いています。

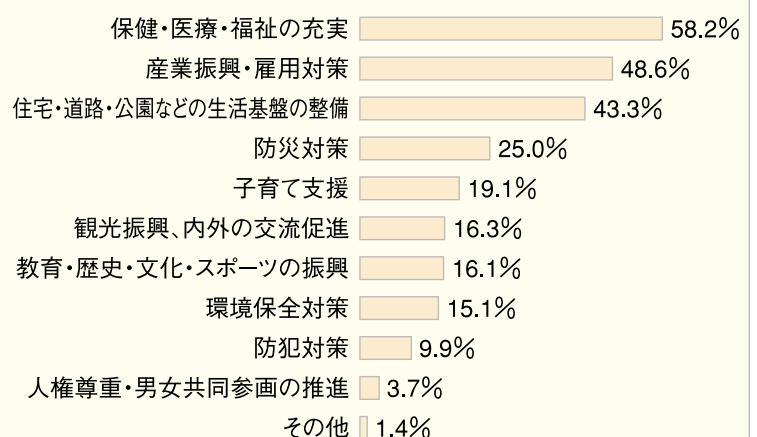
特に、「安心、安全のまちづくり」が上位となったことは、東日本大震災の影響が大きいものと考えられます。



問 市政に参加したいと思いますか？

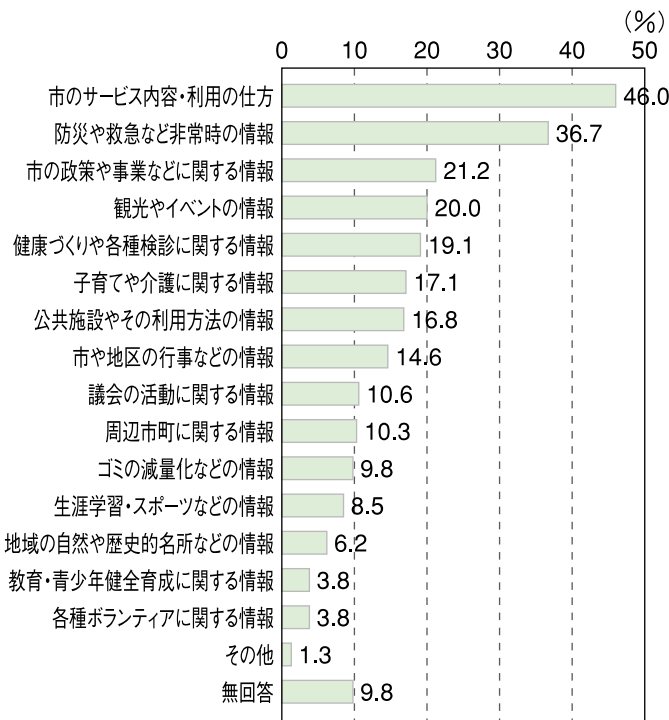


○ 関心のある分野（複数選択最大3つまで）



問 今後提供してほしい情報（複数選択最大3つまで）

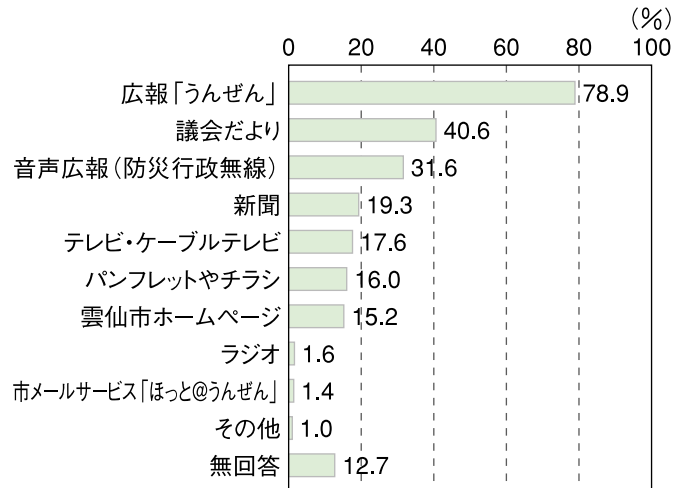
今後提供してほしい情報は、「市のサービス内容・利用の仕方」が最も多く46.0%、次いで「防災や救急など非常時の情報」が36.7%、「市の政策や事業に関する情報」が21.2%となっています。



問 市政に関する情報を

何によって知ることが多いですか？
（複数選択最大3つまで）

市政に関する情報については、広報「うんぜん」が78.9%と最も多く、次いで「議会だより」が40.6%となっており、全世帯に配布される紙媒体で情報を入手する人が多いようです。



雲仙市総合計画後期基本計画素案に対する意見募集

市総合計画は、平成19年度から10年間のまちづくりの目標となる将来像を示す基本構想と、具体的な施策などを示す基本計画で構成されています。前期の基本計画が平成23年度で終了するため、24年度から5年間の後期基本計画の策定を現在進めています。今回、計画の素案がまとまりましたので、雲仙市市民意見募集（パブリックコメント）手続要綱に基づき、素案に対するご意見を募集します。

【素案の閲覧方法】

素案は、政策企画課や各総合支所、雲仙出張所に配置し、募集期間中にご覧いただけます。また、市ホームページからダウンロードすることもできます。

【意見の募集期間】

11月1日（火）から25日（金）まで ※必着

【意見の提出方法】

所定の意見提出用紙に記入の上、郵送、ファックス、電子メールまたは直接持参により提出をお願いします。意見提出用紙は、提出先または市ホームページから取得できます。

※電話・口頭・匿名によるご意見は受け付けできません。

【意見の提出先】

○郵送または持参の場合

政策企画課や各総合支所、雲仙出張所

○ファックスの場合 0957-38-3514

○電子メールの場合

kikaku@city.unzen.nagasaki.jp

【応募できる人】

- 市内に住所を有する者
- 市内に事務所または事業所を有するもの
- 市内に所在する事務所または事業所に勤務する者
- 市内に所在する学校に在学する者
- 雲仙市総合計画後期基本計画に利害関係を有するもの

【留意事項】

提出いただいたご意見につきましては、内容を検討・考慮して原案作成の参考といたします。また、個々のご意見などに対しましては、これに対する市の考え方をホームページで公表し、回答とさせていただきます。

【問い合わせ】

政策企画課 地域振興班

〒859-1107

雲仙市吾妻町牛口名714番地

☎38-3111（内線2322）、ファックス38-3514

メールアドレス kikaku@city.unzen.nagasaki.jp

雲仙市総合計画

UNZEN CITY COMPREHENSIVE PLAN

平成22年度数値目標・事務事業の進捗状況をお知らせします

総合計画とは

雲仙市は、雲仙市基本構想に基づく長期総合計画として、平成19年3月に「雲仙市総合計画2007▼2016」を策定・公表しました。この計画は、雲仙市の将来の発展に向け、市民と行政が一体となって、活力と魅力あるまちづくりに取り組むための指針であり、市政の総合的な経営指針となるものです。

雲仙市の将来像として「豊かな大地・輝く海と ふれあう人々で築く たくましい郷土」を掲げ、その実現のための6本の基本方針を設定しています。

このたび、この6本の基本方針に沿って、各政策・施策の推進の成果を示す「平成22年度数値目標」の進捗状況をまとめましたので、市民の皆さまへお知らせします。これは、計画掲載事業の平成23年度目標値（前期基本計画終了年）と平成22年度実績値を比較し、計画に対する取り組み状況を明らかにしたもので、目標達成に向けての進捗状況を示しています。

雲仙市総合計画の実現に向け、今後も計画の着実な推進を図ってまいります。

- 将来像 豊かな大地・輝く海と ふれあう人々で築く たくましい郷土
- 将来像の実現テーマ 雲仙・山麓「食」・「遊」・「快」のくにづくり
- 計画期間 基本構想 平成19年度～平成28年度
 （前期）平成19年度～平成23年度
 （後期）平成24年度～平成28年度

進捗状況

平成22年度のうちに目標を達成した数値目標は、101件中45件でした（前年度比較5件増）。基本方針ごとの内訳は、次のとおりです。

基本方針	達成済 目標数 全目標数	達成した数値目標の主な項目
みんなでつくるまちづくり	3/12	○地域づくり活動団体数値 ○合併後のコスト縮減累計額 など
快適で住みよい暮らしづくり	9/21	○保安林面積 ○ごみの再資源化率 など
笑顔いっぱいの健康と福祉づくり	3/13	○食生活改善推進事業の参加者数 ○重度障がい者住宅改修のための補助給付率 など
力強い産業と仕事づくり	13/24	○集落営農組織数 ○地元食材を取り扱う市内旅館、ホテル等の割合 など
新しい観光・交流による 活力づくり	6/11	○体験型観光インストラクター及び観光ガイド登録者数 ○観光消費額 など
明日を担う人づくりと 誇りあるふるさとづくり	11/20	○地域での体験活動等の参加者数 ○生涯学習講座等受講者数 など
計	45/101	